

2018年11月9日

各 位

会社名 株式会社ひらまつ  
代表者名 代表取締役社長 陣内孝也  
(コード番号：2764 東証一部)  
問合せ先 代表取締役副社長 服部亮人  
(TEL：03-5793-8818)

特別損失の計上および2019年3月期第2四半期連結累計期間の  
業績予想値と実績値との差異並びに通期業績予想の修正、剰余金の配当  
(中間配当無配)の決定と期末配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、2018年11月9日開催の取締役会において、当社の運営するレストラン2店舗を閉店することを決議し、この閉店に伴い発生する損失を特別損失に計上いたしますとともに、2018年5月11日に公表しました2019年3月期第2四半期の業績予想値と実績値に差異が生じたのでお知らせいたします。これに加え、最近の業績動向を踏まえ、2018年5月11日に公表いたしました2019年3月期通期業績予想を修正するとともに、2018年9月30日を基準とする剰余金の配当(中間配当無配)を決議いたしましたので、お知らせいたします。また、2019年3月期の期末配当予想につきまして、下記のとおり修正することといたしましたのでお知らせいたします。

## 記

### 1. 特別損失の内容

当社の運営するレストラン「アイコニック(東京都中央区)」につきましては、オープン以降、皆様にご愛顧いただけてまいりましたが、出店する商業施設のコンセプトの変更に加えて、変更に伴い新たに入居した近隣テナントと当該レストランとのブランド戦略上の相乗効果が著しく欠如する等の理由から、当該レストランの業績が低迷したため、商業施設所有者様と賃料減額等の条件交渉を継続しておりました。しかしながら、条件合意に至らず、今後の当該レストランの業績回復が見込まれないとの判断に至り、企業活動の継続を遂げるためには経営資源の「選択と集中」が不可欠と判断し、定期建物賃貸借契約の満了に伴い、当該レストランの営業終了を決定いたしました。

また、東海地方にて当社が運営するレストラン「ブラッスリー ポール・ボキューズ ラ・メゾン(愛知県名古屋市)」につきましては、オープン以降、地域の皆様にご愛顧いただけてまいりましたが、経年に伴い店舗を取り巻く外部環境が変化した結果、適切な運営環境ではないとの結論に至り、定期建物賃貸借契約の満了に伴い、当該レストランの営業終了を決定いたしました。

当該2店舗の閉鎖に係る店舗閉鎖損失として、当第2四半期連結累計期間において、417百万円を特別損失として計上いたしました。

併せて、当社をとりまく経営環境をふまえた今後の業績見通しを総合的に勘案し、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討した結果、当第2四半期連結累計期間において繰延税金資産の一部を取り崩し、法人税等調整額として75百万円を計上いたしました。

## 閉店店舗の概要

店舗名	所在地	最終営業日 (予定)
アイコニック	東京都中央区銀座2-4-6 銀座ベルビア館9階	2018年12月31日
ブラッスリー ポール・ボキューズ ラ・メゾン	愛知県名古屋市中村区名駅1-1-4 JRセントラルタワーズ12階	2019年1月14日

## 2. 業績予想値との差異について

2019年3月期第2四半期(累計)連結業績予想値と実績値との差異(2018年4月1日～2018年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 5,753	百万円 702	百万円 706	百万円 476	円 銭 10.97
今回実績 (B)	5,465	314	330	▲159	▲3.64
増減額 (B-A)	▲287	▲387	▲376	▲636	—
増減率 (%)	▲5.0	▲55.2	▲53.3	▲133.4	—
前期実績	5,816	904	909	620	15.97

2019年3月期第2四半期(累計)個別業績予想値と実績値との差異(2018年4月1日～2018年9月30日)

	売上高	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 5,730	百万円 717	百万円 488	円 銭 11.19
今回実績 (B)	5,445	344	▲144	▲3.30
増減額 (B-A)	▲285	▲372	▲632	—
増減率 (%)	▲5.0	▲51.9	▲129.6	—
前期実績	5,803	898	610	15.70

### 【差異の理由】

当第2四半期連結累計期間におきましては、婚礼市場の変化・縮小などの影響に加えて、地震、台風、豪雨、記録的な酷暑等の自然災害の影響から客足が鈍り、さらには外食、サービス業界を取り巻く社会環境の変化に伴う人材不足の顕在化、社会的課題である「働き方改革」に鑑みた定休日の導入等により、売上高が業績予想に比べ低調となりました。各利益につきましては、天候不順に伴う原材料費の高騰、ホテル事業推進に伴う設備投資と人材強化による人件費の増加、広告宣伝費などの新規出店コストの増加などにより費用が当初予想を上回り、期初の予想を下回ることとなりました。加えて上述の特別損失の計上、繰延税金資産の取崩などにより、親会社株主に帰属する当期純損失を計上することとなりました。

### 3. 業績予想の修正について

2019年3月期連結業績予想の修正（2018年4月1日～2019年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 12,116	百万円 1,821	百万円 1,827	百万円 1,234	円 銭 28.48
今回修正予想 (B)	10,914	545	557	10	0.23
増減額 (B-A)	▲1,202	▲1,275	▲1,270	▲1,224	▲28.24
増減率 (%)	▲9.9	▲70.0	▲69.5	▲99.2	▲99.2
(ご参考) 前期実績 (2018年3月期)	11,642	1,519	1,521	1,066	25.43

2019年3月期個別業績予想の修正（2018年4月1日～2019年3月31日）

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 12,074	百万円 1,851	百万円 1,259	円 銭 29.04
今回修正予想 (B)	10,875	585	38	0.88
増減額 (B-A)	▲1,199	▲1,266	▲1,221	▲28.16
増減率 (%)	▲9.9	▲68.4	▲97.0	▲97.0
(ご参考) 前期実績 (2018年3月期)	11,624	1,522	1,067	25.46

#### 【修正の理由】

当第2四半期連結累計期間において地震、台風、豪雨、記録的な酷暑等の自然災害の影響から客足が鈍ったことに加え、第3ならびに第4四半期連結会計期間内に閉店する2店舗の売上の毀損及び、婚礼市場の変化・縮小などの影響が継続することを見込んでおります。

今後の外食、サービス業界を取り巻く市場動向や社会環境の変化による影響を踏まえ、人材強化による人件費増加、広告宣伝費などの費用増加を見込み、2018年5月11日に公表いたしました「2018年3月期 決算短信」に記載された内容から2019年3月期の通期業績予想を変更しております。

今後も段階的なホテル開発を並行し、退店を機とする人材の再配置とマーケティング戦略に基づく既存店強化や、将来を見据え当期から開始した事業構造変革を引き続き推進してまいります。

### 4. 剰余金の配当（中間配当）の内容

	決定額	直近の配当予想	前期実績
		(2018年5月11日公表)	(2018年3月期中間配当)
基準日	2018年9月30日	同左	2017年9月30日
1株当たり配当金	0円00銭	3円30銭	7円00銭
配当総額	-	-	315百万円
効力発生日	-	-	2017年12月6日
配当原資	-	-	利益剰余金

## 5. 期末配当予想の修正の内容

	1株当たり配当金(円)		
	第2四半期末	期末	合計
前回予想	3円30銭	5円27銭	8円57銭
今回修正予想		0円00銭	0円00銭
当期実績	0円00銭		
前期実績 (2018年3月期)	7円00銭	3円00銭	10円00銭

### 【修正の理由】

当社は、株主の皆様への利益還元を経営課題の一つとして位置付け、今後のレストラン、ホテル事業推進のための設備投資、及び企業体質強化のための内部留保を勘案したキャッシュ・フロー重視の経営を目指しつつ、業績に裏付けられた成果の配分として、配当性向30%を目処とした配当を基本方針としております。

しかし、前述のとおり当第2四半期連結累計期間において特別損失を計上したことに加え、現在の事業環境や業績を勘案し慎重に検討いたしました結果、1株当たり3円30銭を予定していた中間配当を無配とさせて頂くことを決議いたしました。

また、当期の期末配当につきましても、1株当たり5円27銭を予定していましたが、これらの事情と今後の事業計画を総合的に勘案し、誠に遺憾ながら見送る予定とさせて頂きます。

(注) 上記の予想数値は現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって記載の予想数値とことなる可能性があります。

以上